東京リハビリニュース

発行 / 社会福祉法人 東京リハビリ協会
東京都立川市富士見町 7-33-3　TEL042-521-1234　FAX042-521-1203
E-mail　ma01@trg.jp　　ホームページ　http://www.trg.jp/

2019年7月
NO.173

季節の足音…

今号の主な記事

55 年前にあってなかったもの　現在あってなくなったもの・・1
平成 30 年度 事業報告・決算報告承認される・・・・2～3
日の出事業所ロールライン・ユニフォームフォルダー増設 ・・・3
シリーズ 21 苦言・甘言・・・・・・・・・・・・・・・4～5
平成 30 年度 TRA 親睦会決算報告について　・・・・・・6
事業所だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

55年前にあってなかったもの　現在あってなくなったもの

1年前の「東京リハビリニュース（No.169・平成30年6月号）」の巻頭ページに、『平成30年度障害福祉サービス等報酬改定により後退、経営に影響』の記事を掲載した。平成30年度の決算は、非常に厳しい結果となった。一番の要因は、障害福祉サービス事業の収支が、前年度と比較し約4、500万円の大幅減収になったことである。

報酬改定前の試算から、年間約2、600万円の大幅減収を予測し、その内約2、000万円の減収を見込んでいた就労移行支援事業を廃止し、就労継続支援A型事業の新設を計画していた。行政との協議を春先から進め、事業計画書に基づき幾度となく折衝したが、平成29年度に他県で発生したA型事業所の大量解雇等の影響により、A型事業の新設条件が厳しくなり断念せざるを得なかった。新設と廃止を同時期に実施の予定であったので、移行支援事業の廃止についても、A型事業断念までの時間を要したため、結果11月30日付での廃止となった。その間、廃止予定の事業に入所者も受け入れられず、数ヶ月間現員0～3名の状態が続き更なる減収となった。また、就労支援事業収入については、収益は維持されたが、収支状況は平成29年度より悪化した。決して楽観視している訳ではないが、悪化した原因は、本業（リネンサプライ部門）の不振によるものではない。医療リネンサプライ部門については、大口のお客様の値上げ等の影響によるものが大きいが増収増益であった。新規事業（ホテルリネンサプライ部門）においては、今年度に、約1億2千万円をかけて設備整備（詳細は3ページ掲載）を実施した。これで新規事業に対する設備投資は完了し、大型機器類の購入や入れ替え等は、当面発生しない為、今年度以降は代金回収に全力で取り組まなければならない。ホテルリネンサプライは6回転分、医療リネンサプライは3回転分、契約時に資材（リネン材）を先に購入（投資）する。

契約初年度は、リネン材購入代金等、支払いのマイナス要素が大きくなるため収支が悪くなる。しかし次年度は、まとまったリネン材の仕入代金の支払いはなくなるため、その分がプラス要素に変わる。

新規ホテルリネン事業の将来見通しも、日の出事業所のクレームのない高品質の製品により、お客様からの信頼が生まれ、さらに新たなお客様を生み、現状の営業にプラス効果をもたらしている。真の意味で、今年度は正念場の年になる。

そして、本年は創業55周年の年である。55年前にあってなかったもの、そして現在あってなくなったものは…。

55年前の創業時（無認可作業所三恵中央センターとして開設、東京リハビリ協会の前身）は、信頼と実績を得る為に役職員が夢と情熱を持ち、借金を抱えながら苦労と共に今のリハビリを築いた。今は、信頼と一定の実績を得る事が出来、借金もない。将来にたすきを渡していくために、我が事のように夢と情熱を持ち続け、継承していける数多くのリーダーをつくり上げ、育てていくことが急務である。

（理事長　緑川　清美）

平成30年度事業報告・決算報告承認される

2019年6月5日（水）に、2019年度第1回理事会、6月20日（木）に2019年度定時評議員会がそれぞれ開催され、平成30年度事業報告（案）及び決算報告（案）が全会一致で承認された。ここに平成30年度事業報告の概要及び決算について説明する。

平成30年度事業報告の概要

◉自立生活希望者を支援する

親亡きあとの利用者の生活環境にマイナスが生じないよう自立生活希望者を支援するにあたり、今年度は、利用者を一人で生活できる人、複数であれば生活できる人、また所得の状況等によりグループ分けを実施し、家族・本人と面談を行った結果、立川事業所1名、日の出事業所4名の合計5名がグループホーム等への自立生活へ移行することができた。

◉就労継続支援A型事業の開設

法人内で協議を重ね、申請に必要な書類等を東京都に提出したが、指定要件の条件が厳しくなったこと等から、平成30年度の開設は断念せざるを得なくなったので、改めて事業の再編を行った。4月からの報酬改定により大きく減収となった就労移行支援事業については、このまま事業を継続すれば法人経営に大きく影響を及ぼしかねないため、廃止の手続きを行い、11月30日に廃止となった。

廃止となった就労移行支援事業の定員（計24名）については、他の就労継続支援B型事業及び生活介護事業に振り分けた。

◉人材育成の強化

①2019年度新入職員の採用準備

2019年度新入職員の採用については、ハローワーク等への新卒求人の掲載や、就職説明会・就職フォーラム等へ積極的に参加し、また過去に採用した学校訪問を行い、結果2名を新入職員として採用した。

②職員に対する内部・外部研修の実施

人材育成研修として、同業他施設3か所、延べ13名が視察研修をした。

また、事業に必要な資格取得を支援し、衛生管理者1名、サービス管理責任者2名、リネンサプライ事業技能実習講習会では、初級に2名が合格した。その他各種障害者団体等が主催するセミナーや研修会等へ延べ42名の職員を参加させた。

◉災害対策の強化

今後高い確率で発生するとされるマグニチュード9クラスの巨大地震等やゲリラ豪雨等といった自然災害に備え、災害対策を強化した。

①定期的訓練、消防署との合同訓練の実施

各事業所において、地震等の災害を想定した避難訓練を合わせて15回実施した。

また、消防署との合同訓練も実施し、消火器の使用方法や広域避難場所等を確認した。

平成30年度決算報告

財産目録

平成31年3月31日現在

【資産の部】　（単位：円）

科目	金額
基本財産	1,611,002,852
流動資産	933,121,363
有形固定資産	874,912,682
その他固定資産	150,240,953
資産合計	3,569,277,850

【負債の部】

科目	金額
流動負債	211,498,462
固定負債	15,845,358
負債合計	227,343,820
正味資産	3,341,934,030

貸借対照表

平成31年3月31日現在（単位：円）

科目	金額
流動資産	933,121,363
固定資産	2,636,156,487
うち基本財産	1,611,002,852
うちその他の固定資産	1,025,153,635
資産の部合計	3,569,277,850
流動負債	211,498,462
固定負債	15,845,358
負債の部合計	227,343,820
基本金	335,287,080
国庫補助金等特別積立金	818,879,613
その他の積立金	121,000,000
うち工賃変動積立金	17,000,000
うち設備等整備積立金	104,000,000
次期繰越活動収支差額	2,066,767,337
純資産の部合計	3,341,934,030
負債及び純資産の部合計	3,569,277,850

事業活動計算書

(自:平成30年4月1日 至:平成31年3月31日)(単位:円)

科目	金額
サービス活動収益計	1,604,162,406
サービス活動費用計	1,608,639,309
サービス活動増減差額	△4,476,903
サービス活動外収益計	137,645
サービス活動外費用計	105,175
サービス活動外増減差額	32,470
経常増減差額	△4,444,433
特別収益計	46,980,000
特別費用計	49,377,836
特別増減差額	△2,397,836
当期活動増減差額	△6,842,269
前期末繰越活動収支差額	2,001,609,606
当期末繰越活動収支差額	1,994,767,337
その他の積立金取崩額	104,000,000
その他の積立金積立額	32,000,000
次期繰越活動収支差額	2,066,767,337

資金収支計算書

(自:平成30年4月1日 至:平成31年3月31日)(単位:円)

科目	金額
事業活動収入計	1,604,300,051
事業活動支出計	1,498,102,352
事業活動資金収支差額	106,197,699
設備整備等資金収支差額	△175,444,111
その他の活動収入計	104,000,000
その他の活動支出計	32,000,000
その他の活動資金収支差額	72,000,000
当期資金収支差額	2,753,588
前期末支払資金残高	735,997,322
当期末支払資金残高	738,750,910

②非常用食品等の備蓄と定期点検

非常用食品については、賞味期限が近づいたものの入替えを行い、自立生活をしている利用者を中心に配布を実施した。

避難用具や救助袋等の防災設備に関しては、契約している防災設備会社の防災設備点検を2回実施した。

◉創業55周年に向けたプロジェクトチームの発足

2019年9月15日に創業55周年を迎えるにあたり、創業55周年記念事業プロジェクトチームを発足し、記念厚生旅行、記念式典等各種記念事業を円滑に進めるため担当者を決め実施するための準備を行った。

◉その他主な実施項目

①今年度実施した「地域における公益的な取組み」として、両事業所合わせて4校の中学生計18名の職場体験実習の受け入れ及び、特別支援学級の小中合同保護者会の施設見学も受け入れた。また、立川市より委託されている高齢者おむつ給付助成事業においては、地域における高齢者の見守り事業も併せて行った。

各事業所の取組みとして、立川事業所では「災害時における災害活動等の支援に関する協定書」において福祉避難所として立川市と災害時協定を締結しており、各種連絡会等へ参加した。また、立川市障害者後援会主催の「春を呼ぶコンサート」に参加し地域との交流を図った。日の出事業所では、近隣の商業施設で開催された「ひのでスマイルフェスティバル」に参加した。

②就労移行促進について、ハローワークや地域の就労支援センター等との連携を図り、雇い入れ先への実習を重ねたことにより両事業所合わせて3名を一般企業等への就職に繋げることができた。（清水）

おめでとうございます！ 社会福祉協議会より 永年勤続功労者表彰

昨年度、第67回東京都社会福祉大会において、日の出事業所の橋本マネージャーと坂本チーフが「東京都社会福祉協議会　会長感謝状」を受賞した。

2名とも20年以上もの間、社会福祉に従事し、福祉の発展の為に努めてきた事が評価され、永年勤続功労者として表彰された。

今後も、利用者がより良い生活を送ることが出来るよう、日々の支援を通じ当会及び福祉の発展の為に尽力して頂きたいと思う。

（中村）

坂本進チーフ

橋本紀子マネージャー

日の出事業所 ロールライン・ユニフォームホルダー増設

令和元年5月20日、日の出事業所ホテルリネンサプライの仕上げ場にデュベカバー用のロールラインとユニフォームフォルダーが増設された。これまでシーツ類の仕上げ場では、シーツ・デュベカバー・ピロケースの3品目を2ラインで生産していた為、洗濯に対し仕上げ作業が追い付かない場合があり、機械性能を最大限に発揮することが出来ていなかった。今回のロールライン増設で、シーツ・デュベカバー・ピロケースを同時に生産できるようになり、仕上げ作業はもちろんのこと、洗濯作業についても最大限の生産を行う環境が整った。また、ユニフォームフォルダーについては、新規ホテルの契約増加に伴う増設である。この増設により一日6、000人分のガウン類をフォルダーのみで生産を行うことが出来るようになった。今回の増設工事で生産設備は整った。あとは我々職員が中心となり、機械性能を100%引き出し目標に向かっていくだけである。

（友野）

デュベカバーを1時間に500枚生産できる、増設されたロールライン投入部

手前が増設されたユニフォームフォルダー　無人で稼働中

Series シリーズ 21

苦言 甘言

我が国の障害者就労支援の現状と工賃改善と生活環境の向上

6月中旬に関西の医療・福祉系大学から、特別講義の要請を受けて訪問した。この大学には昨年も6月に招かれて講義を行った。受講学生は3・4年生、来春就職する学生も多くいたが、一人でも多く障害者施設に就職をと誠心誠意の講義を行った。又、事前の資料収集に当たり、行政の知人関係に依頼したが流石に、新しい情報ばかりで感謝！その時、揃って皆さんに言われた事は、我が国の今後の人口減と税収減により、徐々に国民生活や障害者福祉等に大きな影響が出てくるとの事であった。頂いた資料の中には、HP等で公開されているものもあるので、施設関係者は利用したら如何かと思う。

30年度 出生数・死亡数による人口減444千人

人口減少が予算編成に影響し始めているようだ。昨年の出産数は約918千人、死亡数は約1、362千人。減少数444千人。納税者数が減少していく事がわかる。一方、高齢に伴う発症で増加する障害者やその他の医療提供当該者等にかかる予算は増加の一途を辿ることになる。そうなると支出を抑える施策抑制は現在の比ではない事は、我々素人にもわかる。障害者福祉も一段と厳しくなると考えざるを得ない。

気になる、以前に起きた障害福祉サービスの介護保険制度への統合案の再来を

今後、歳入が不足していく過程で身近で最も危惧しているのは、障害福祉制度の介護保険制度への統合である。両制度の仕組みはまったく違うが、国家予算の1／3が借金で編成されている現状を考えると、有り得る話である。

思い出して頂きたい。平成16年10月に開催の社会保障審議会の席上に唐突に1冊の資料が配布された（当時、セルプ協会長）資料には、両制度の統合案が示され、委員の反対にあうと共に、翌日から関係諸団体の反対運動が、政治家を巻き込む騒ぎとなり、提出側はあっという間に引っ込めてしまった経緯を、社保審委員の一人として目の前で見聞した。逼迫している国家財政だけに、いつ又、再発するかも知れない。油断は禁物である。

介護保険と障害福祉サービスの財政負担率の違いが原因

記述した統合の理由は、両制度の国民負担が左表の如く大きく違うからである。

□**両制度の負担割合**

制度	国	都道府県	市町村	利用者
介護保険制度	25％	12.5％	12.5％	50％
障害福祉サービス	50％	25％	25％	0％

介護保険制度では、公費負担が50％、国民負担が50％であり、障害福祉サービスの負担は、例えばA型、B型、就労移行、生活介護は、原則利用者負担0円であり、公費負担が100％である。

二つ目の大問題勃発 15年前 体系から授産が消え大騒動 深夜のXマスプレゼント

ある日突然、経営している事業が制度から消えたら、多くの障害者の生活はどうなるのか、失業する職員はどうなるのか、それが授産で起きそうになったが省内の少数の理解ある人達によって、B型に変わって継続される事になった。15年前の小泉政権時代「三位一体改革」のもとに、国家財政の見直しが行われた。連日交渉のため訪れた厚労省の中は「三位一体」対策で騒がしかった。ある日、全予算科目10％マイナスが発令され大騒ぎになったのを多くの人が覚えていると思う。国は予算が逼迫すると、国民不在の生き延び方を示してくる。次の一件もその一つである。

社会保障審議会会議に「新体系案」

平成16年10月12日開催の会議に提出された資料「**今後の障害保健福祉施策について〈改革のグランドデザイン案〉**」の体系案15Pを開いて、愕然とするより頭の回転が一瞬止まり、授産が抜けた一点だけを見つめていた。思ったことは、行政は【企業で働く事が困難な障害者の働く施設制度を廃止して、今後どうするのであろうか】廃止の資料を作成した人は、授産施設に在籍している人達をどうしようとしているのか、頭の回転が停止した私は、【障害者の生活保護受給者を大量に出すつもりなのか】根拠もないことを漠然と考えていた時、同じような事を実施した国の事が浮かんできた。

豪州のセンター・インダストリーズ。1961年営業開始、健常者80人、脳性マヒ者32名、次に訪ねた時は脳性マヒ者が200名、その他の障害者50名、健常者550名になっており、郵政省と契約し電話交換機を製造してい

た。が、次に訪ねた時は、廃止に追い込まれ２００名の脳性マヒ者は小さな施設に分散され、働く意欲も削がれ、日向ぼっこ状態でじっと何かを見ていた。今回の「授産無用」は、障害者を知らない部署から来た人が、この制度改革によって、国家財政に寄与する事を望み、その陰には昇進！そうでなければ、出来ないはずである。余りにも人間無用だからである。「授産施設廃止」案が提出された日から、厚労省通いが始まった。騒がしく動いているのは、障害福祉部の一角に仕切られ「関係者以外出入り禁止」の貼紙だけが目立つ部屋、住人は厚生労働省の障害以外の部署から来たキャリア数名。何十回と話し合った。全てが論破された。頭の構造が違った。しかし時間の経過と共に弱点が見えて来た。試してみたら通用し４ヶ所ほど改めてくれた。その後短期間に数人に使用し結構成果を上げたが、幹を倒すまでには行かない。

障害者授産施設制度が誕生して約半世紀の歴史を守り、発展させてきただけでなく、授産の現場を知っている行政の皆さんを訪ね、廃止撤回を訴えた。彼らもなぜ廃止なのかわかっていなかった。11月も月半ばを超えた頃から、一つの心配事が大きくなってきた。それは、授産制度の廃止案を前提とした翌年度の予算案の編成がスピードを加速しているのではないかという事であった。新体系案が示されてから早一ヶ月半、11月も残す所一週間。この間、昼夜を問わず数十回、厚労省を訪ね、多くの人に誠心誠意、真っ正面から「企業への就労が困難な障害者の福祉支援による、就労制度の必要性」を訴えてきたが、良い答が無いままに時間だけが経過し、暦は12月に、いよいよ来年度予算を審議する1月開催の通常国会開催日が、目の前に迫ってきた12月10日過ぎから、担当上司の難しい発言内容から、少しであるが今までとは違う空気が読み取れた事が幾度かあった。

その日から、午前中は時間を取って貰えなくなり、午後から夜中まで関係部署を最高1日4回も訪ねた事もあった。特に昭和時代から授産の現場を重視する指導層の方で長い付き合いを戴いてきた、当時は福祉部局の重鎮に席を置く方は授産の現場も熟知しており、1週間に何回も訪ねている内に、少しづつであるが状況が理解出来てきた。内心、今回の予算編成は総理の三位一体改革との関係で、軒並みマイナス予算の情報もあり、半分諦めの弱気も出ていただけに、思いがけないＸマスプレゼントになるとは夢物語であった。それは夜中の2時過ぎに、担当部署の重鎮から電話が入った。10月以降夜中に電話が入るのは度々で慣れてきていた。しかし、今日の電話は違い、いきなり「B型を新体系に確保出来た！ただし、問題がある、予算編成がほぼ終わった後なので、運営費は体系の中で最も低額である。それでもいいか？どうする」私は「これから、幹部と話し合うので朝まで時間を戴きたい」。

翌朝、お礼のため役所に向かった。挨拶をして回るなかで「おめでとう」「一部の人達から相当の反対意見があったが重鎮が乗り越えた」「これからは利用者の為に頑張って欲しい」と釘を刺された。

さて、15年前の出来事を思い出して記述しているが、一人でやったのではない。当時、授産施設に関わった団体は幾つかあった。多分それぞれの団体が同じような行動を取っていたと思う。その結果が障害者授産施設を生み、育ててきた行政マンを動かしたと言える。現在就労継続支援Ｂ型施設は、左記の通り激増している。

Ｂ型施設約１１、０００ヶ所
利用者約２６０、０００人

あの時、授産が廃止になっていたなら、企業に雇用を断られた障害者は今何をしているだろう。1万5千円の工賃では、多分この制度に対し、国も国民もいつまでもＯＫではないと思う。

工賃支給が目的ではない 目的は自立生活の拠点作り

親は、子より先に逝去する。その後利用者が人間らしい生活を送れるかが、我々に与えられた大きな課題である。

今、当会には約１８８名の利用者が在籍し、82名が施設の近辺で自立した生活拠点を確保している。

自立生活の為の賃金支給を

法律には【Ｂ型を利用し賃金を支給し自立生活に移行させる】と定められている。

財産形成期間を長く持とう

多くの役職員は、親の庇護から自立し、独自の生活環境で過ごしている。自立生活を実現しているのは所得があるからである。では、なぜ利用者だから1万5千円の月給で良いのか？大人になった利用者は、毎日施設に遊びに来たり、毎日友達を捜しに来ているのでは無い。そうだとしたら経営方針が違っている。月給1万5千円前後の期間が長引けば財産形成の期間が短くなり、最終的に生活保護受給者に陥る事になりかねない。Ｂ型は生活介護や就労移行と目的が違う事を、今一度確認すべきである。

（斎藤）

事業所だより

立川事業所

＝ボウリング大会＝

始球式で今年もボウリング大会スタート！

5月11日（土）、立川事業所恒例の「ボウリング大会」が、35名参加の中、盛大に開催された。

ボウリング大好きなみんなで全員集合～♪

ゲーム開始に先立ち、今回は「始球式」から開幕。投じるのは前回チャンピオンの千葉雅彦さん。見事ストライク！…とはならなかったが、大いに盛り上がるオープニングとなった。早速、各レーンに分かれゲーム開始。「ストライクだぁ～」「凄～い!!」と大歓声の中、あっという間に1ゲーム目が終了。2ゲーム目はガーターゾーンを塞いで逆転チャンス。会場は益々盛り上がった。ゲーム終了後の表彰式では、最高得点賞のほか、ストライク賞・スペア賞の表彰。各賞に緑川所長から可愛らしい特別賞もあり、皆大喜びだった。全員に参加賞を渡し、大盛り上がりの中、幕を閉じた。（内野）

日の出事業所

＝バルーンアート作り＝

5月25日、食堂にて「バルーンアート作り」を開催。

細長い特殊な風船を使って、イヌやウサギなどの楽しい作品を作った。

一本のバルーンから空気を調節して「キュキュッ」とひねって形を作る。この「キュキュッ」が怖くてほぼ半数の方が目を閉じたり、「キャー割れるかもぉ～」「割れた―」と大賑わいの中完成した。

最後に参加者全員でバルーンを使って、「創業55周年」のアート作品を食堂の壁に作成した。（内田）

割れないかドキドキわくわく

創業55周年!!

HAPPY BIRTHDAY

6月

立川事業所

秋元美智子 さん
池田　静恵 さん
岩崎好司郎 さん
金井　弘一 さん
鈴木　博 さん
塩野　清隆 さん
白川　大樹 さん
染谷　善之 さん
田上　正崇 さん
田村　理江 さん
団野　夏芽 さん
高橋フミ子 さん
東田　雄大 さん

日の出事業所

川久保晴満 さん
澤邉　猛 さん
住井　信裕 さん
高橋　康大 さん
高橋　努 さん
田中　宗一 さん
松永　良輝 さん
古谷　俊祐 さん

7月

立川事業所

市川　勇二 さん
井上　昇一 さん
内野　晋 さん
剣持　大亮 さん
小池　達耶 さん
児島　沙織 さん
佐藤　洋介 さん
下田　実 さん
徳田　良和 さん
溝口　貴大 さん

日の出事業所

吉川　友視 さん
久保田佳子 さん
栗原　幸生 さん
小池　孝典 さん
小泉　公俊 さん
小谷小百合 さん
佐野　仁一 さん
鈴木　昇瑚 さん
土田　拓未 さん
奈良　一総 さん
畠山　裕之 さん
眞鍋　淳 さん
宮田　誠 さん
持丸　修一 さん
森田　道春 さん
森谷美津昭 さん
矢島美津子 さん
山田真由美 さん

【平成30年度】決算報告について

平成30年度（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）TRA親睦会決算報告について、上記の通り報告する。（池田）

平成30年度 TRA親睦会 決算報告

【収入の部】

科目	決算額	備考
会費収入	1,053,900円	延 3513人分
雑収入	11円	預金利息
前年度繰越金	1,315,299円	
合計	2,369,210円	

【支出の部】

科目	決算額	備考
福利厚生費	832,028円	誕生日祝い、行事等
慶弔見舞金	301,000円	
雑費	0円	
次年度繰越金	1,236,182円	
合計	2,369,210円	

訃報

4月2日、立川事業所　吉澤和博さんの御母堂様がご逝去されました。

5月24日、立川事業所　井上昇一さんの御母堂様がご逝去されました。

6月23日、日の出事業所　秋山佳輝さんの御尊父様がご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆編集後記◆

ご意見や特集希望等、ございましたらお気軽にお問合せ下さい。（高橋）